

生活科教育 理論研修会 終了報告

テーマ	生活科と子どもの思考	
日時	平成28年 8月 2日(火)	
会場	石狩教育研修センター	
指導者	渡辺一生 氏 (北海道生活科・総合的な学習教育連盟 研究部長 札幌市生活科・総合的な学習教育連盟 研究副部長 札幌市立北九条小学校教諭)	
参加者	約 31名	
研修会 の 様子		<p>隔年で理論研修会と実技研修会を交互に行っており、昨年度はリニューアルオープンした「サケのふるさと千歳水族館」で実技研修会を行いました。</p> <p>今年度は、4年前にも来ていただいた札幌市立北九条小学校から、渡辺一生教諭を指導者としてお招きしました。</p>
		<p>今回の研修会の参加者の中には、生活科が初めてという先生方もいらっしゃいましたので、まずは「生活科とは何か」という生活科の概論の説明がありました。その中で、生活科や総合ができた頃の先生方が、「子ども観、授業観をしっかりと転換していきましょう。」という考え方をもち、「子ども一人一人の見方や考え方が違う子ども達にしっかりと対応するようにしよう。」ということで生まれきた教科であることなど、わかりやすく丁寧に説明していただきました。</p>
		<p>生活科とは、見えているようで見えていない世界に関わっていく、気付いていくものである。関わっていくということは、自分で世界を広げ、関わりを深めていくことになる。つまり知っているようで、知らない世界に飛び込んでいくことが生活科では大事なのである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特に思いや願い、目標が、『近づく、実現する、達成する。』こと。 ○ 知識や技能の獲得といった、『わかる、できる』こと。 ○ 今後の見通しにつながる『やれそうだ。』『役に立つ。』『今後も使える』こと。 <p>よりよい自分への手応えを持っていることで、自分の学びを実感していくことである。と生活科の捉え方をわかりやすく教えていただきました。</p>
		<p>生活科の経緯は、最初は、授業観を変えていくために、「体験を通して学ばなければいけない。」ということで、体験重視した授業の取り組みが多かった。その反面、「評価」となった時に、「体験あって学びなし」という批判もあった。そこで、これまでの反省を受けて、次の指導要領では「気付きの質の高まり」が重要であり、体験はさせっぱなしにするのではなく、表現して言語化することによって価値に気付く、自分の良さ、気付きの自覚が生まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体験は言葉を豊かにする ○ 言葉は体験に価値を持たせる <p>体験→表現→体験→表現の繰り返しが大事であることを教えていただきました。</p>
		<p>気付きの質の高まる教師の関わりとは、「間接的に関わりながら子どもの気付きを自覚させていくこと」である。</p> <p>その後、実際の子どもの作品（ワークシート）をもとに2回のグループワーク活動をおこない、より実戦に近い感覚で気付きについての見取り方の学習を進めることができた。どの先生方も休み明けの授業に生かそうと、取り組み方も真剣であった。</p> <p>終わりににはスタートカリキュラムのことについても触れていただいた。全般にわたり、わかりやすく丁寧に進めて下さった講師の先生に多くの参加者が有意義な研修であったと評価をしていただきました。</p>